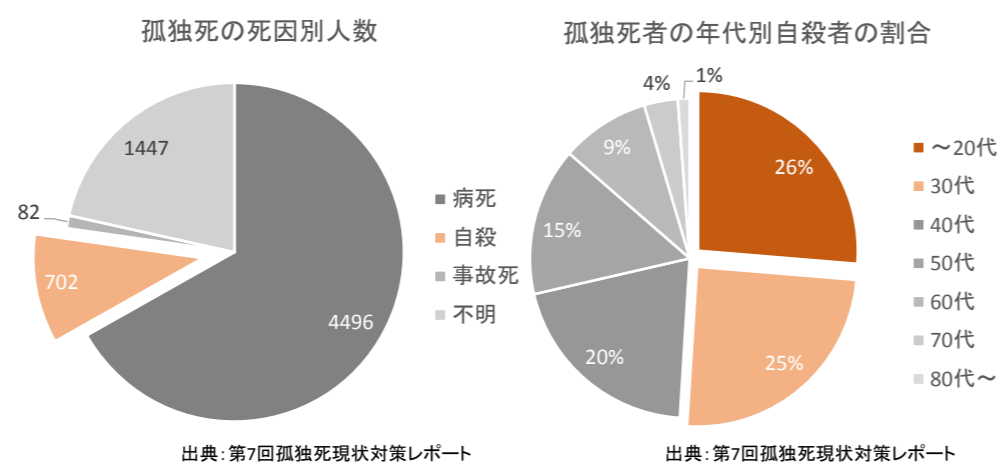
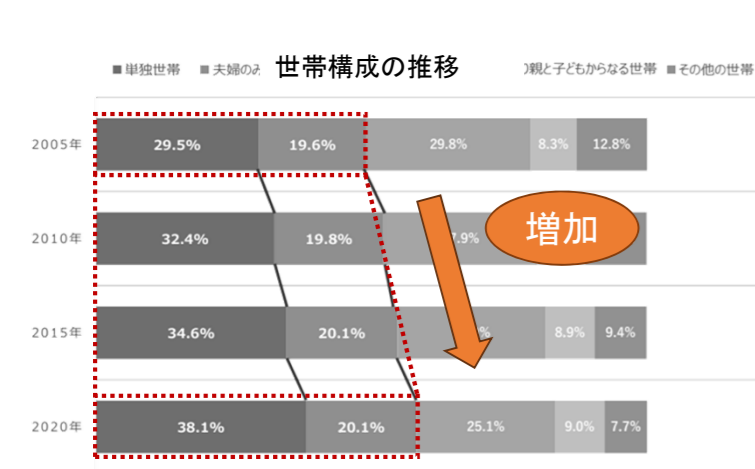


01 計画背景と目的

作品名	架け橋 ひとりと社会をちょうどいい距離でつなぐ コレクティブハウス	作品番号	1/4
校名	岐阜女子大学		
氏名	守川 友理		

1. 孤独死と若者の自殺



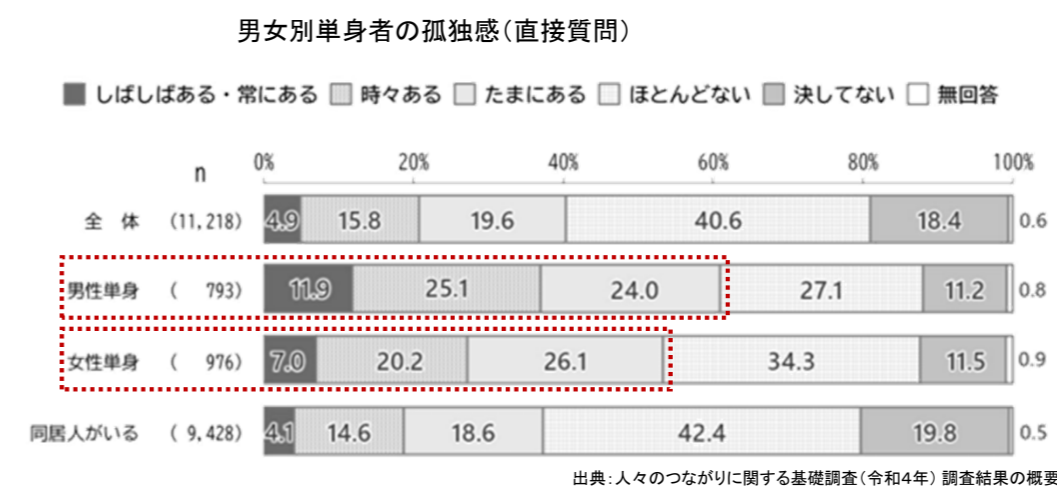
「**単独世帯**」「**夫婦のみ世帯**」が年々増加傾向にある

死因の割合がわかっている孤独死で最も多いのは、病死で、次に自殺となっている

孤独死が身近に起こる可能性が高くなっている

孤独死した自殺者の年齢構成は、**若年層(～20・30代)**で50%を占める

2. ひとりと社会



男女別単身者の孤独感に関する調査より
男性約60%・女性約53%が孤独を感じている

進学や就職で地元から離れて都市部で一人暮らしを始めた時に孤独感を感じやすいのではないかと考えた



3. 人との距離感

年齢	積極的	やや積極的	どちらともいえない	やや消極的	消極的	積極的計	消極的計
全体 (n=1,100)	5.5	15.5	36.3	20.7	22.0	21.0	42.7
20代 (n=220)	10.0	20.0	30.0	20.9	19.1	30.0	40.0
30代 (n=220)	5.0	16.8	38.2	17.7	22.3	21.8	40.0
40代 (n=220)	3.2	14.1	33.6	23.2	25.9	17.3	49.1
50代 (n=220)	5.9	10.5	40.5	20.0	23.2	16.4	43.2
60代 (n=220)	3.2	16.4	39.1	21.8	19.5	19.5	41.4

20歳が他者とのコミュニケーションに積極的若いうちにコミュニケーションをとるトレーニングの場が必要である

他者との関わりを持てる人が増え孤独死のリスクを減らすことができる

- ・家族や親しい人以外の人とのコミュニケーションに対する積極度の割合は20代が一番高い結果となった
- ・ふれあい恐怖症候群の若者が増加している

例) 食事や相談できる友人がいない
雑談・世間話で何を話したらいいかわからない

人間関係が**面倒**だと思う一方で、**孤独**を感じている

4. 計画の目的と解決策

【計画の目的】

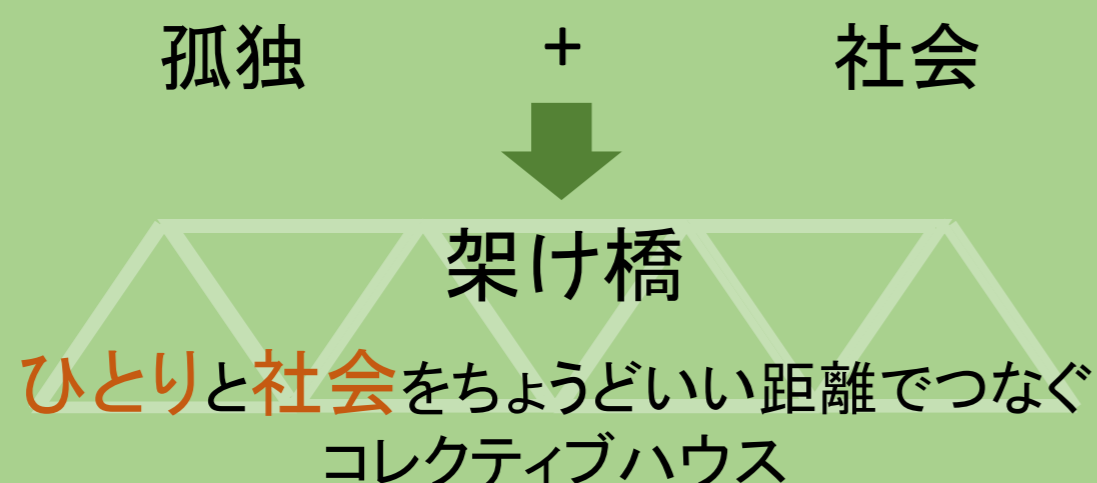
- ① 孤独な自殺を選ぶ若者を少しでも減らす
- ② 孤独を感じさせない仕組みをつくる
- ③ わずらわしくない人間関係をつくる

【解決策】

- ① **コレクティブハウス**に**单身若年層**を集め、
- ② **共用施設**を活用して
- ③ 段階的に社会に踏み出す**ちょうどいい距離感**をつくる工夫をする

コンセプト

寂しい
独りぼっち
孤立
離れ離れ
隔離
沈鬱



組織
会社
他人
大衆
近隣の人
住人

計画地

愛知県名古屋市中区丸の内3丁目

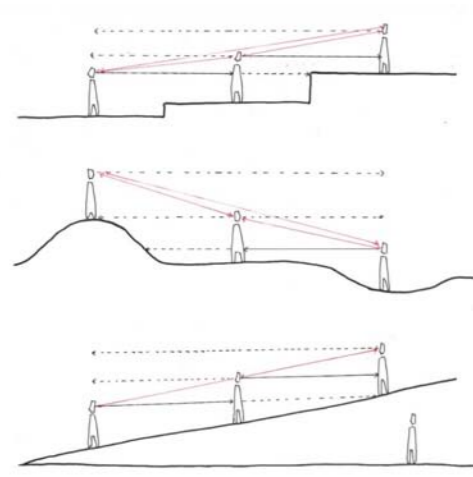
- ・緑地と公園が近隣にある
- ・病院が近くにある
- ・子ども・若者総合相談センターが近くにある
- ・交通の便が良い



空間構成要素の基本モデル

I. 視線のコントロール

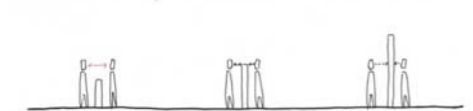
①床の高低差



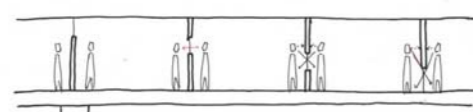
②壁による障壁 (壁の透け感)



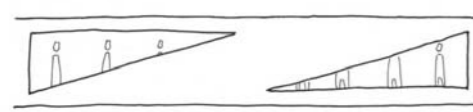
③植物による障壁 (植物の種類)



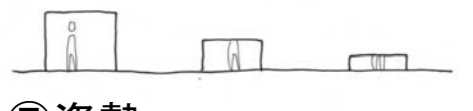
④壁の高低差



⑤開口部の形



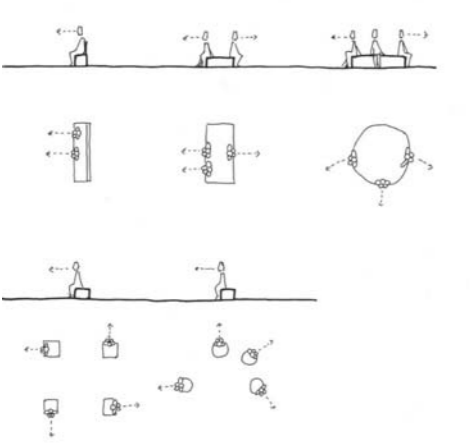
⑥開口部の高さ



⑦姿勢

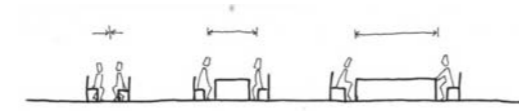


⑧椅子による視線の向き

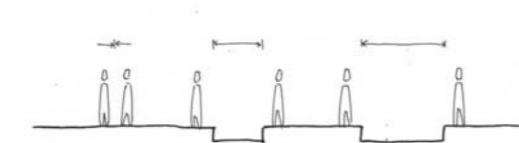


II. 物理的距離のコントロール

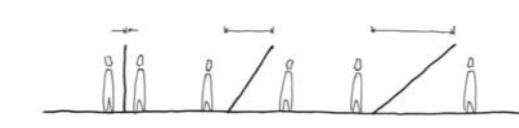
①物による間隔



②凹による間隔

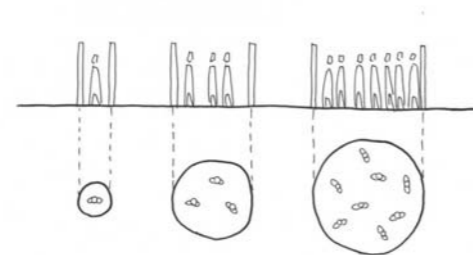


③壁による間隔 (壁斜面による人との距離)

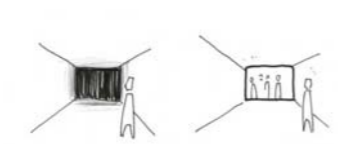


III. 集団規模のコントロール

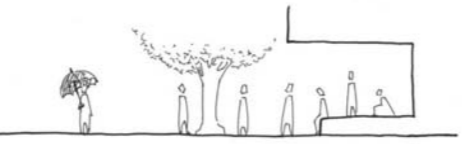
①スペーシングを考慮した集団誘導



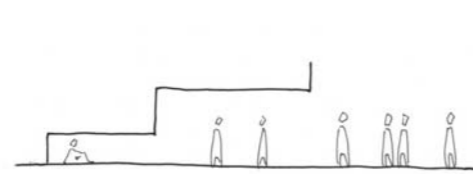
②光による集団誘導



③日陰による集団誘導



④天井の高さによる集団誘導



基本モデルの組み合わせによる室・空間イメージ

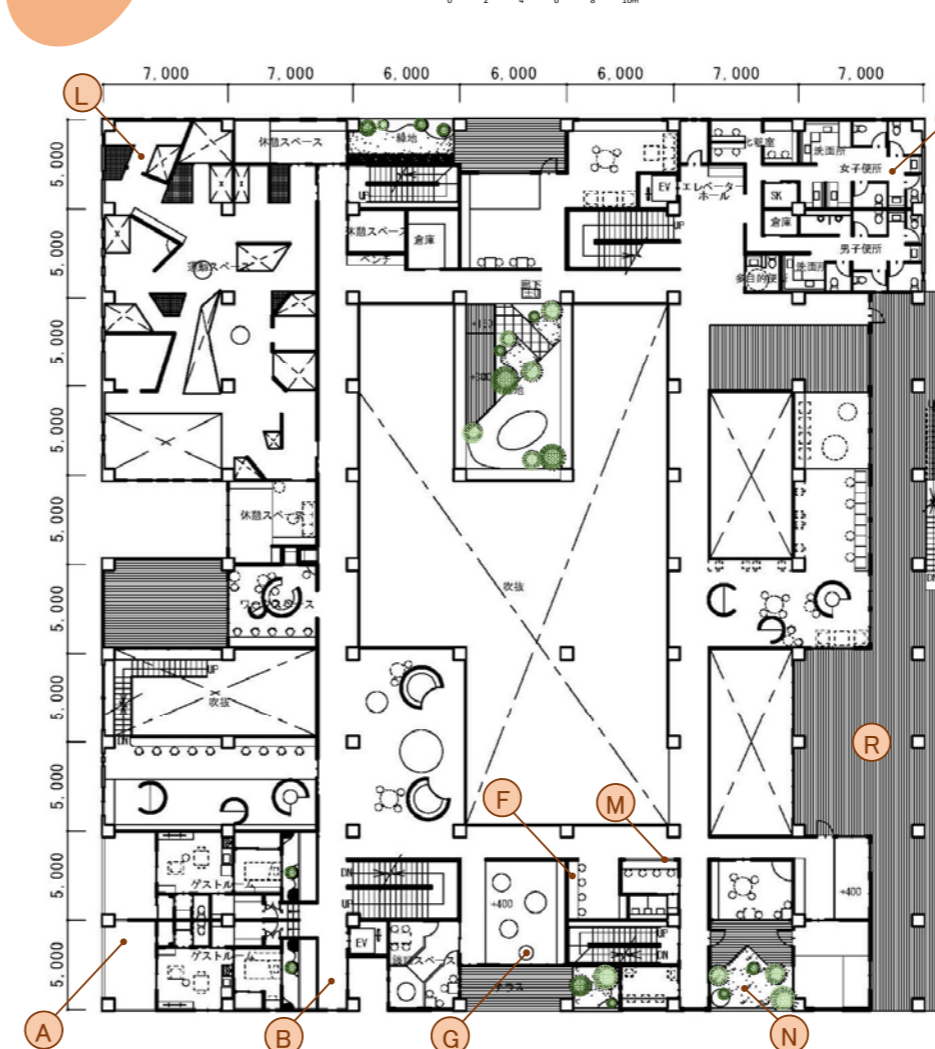
<p>距離感レベル 離 近</p> <p>A. 個室とバルコニー I ②壁による障壁 III ②光による集団誘導</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>B. 個室と廊下 I ①床による高低差 II ②凹みによる間隔</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>C. 住人の会議スペース I ①床の高低差 ⑧椅子による視線の向き</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>D. 住人の会議スペース I ⑥開口部の高さ II ②物による間隔</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>E. ワークスペース I ②壁による障壁 III ①スペーシングを考慮した集団誘導</p>
<p>距離感レベル 離 近</p> <p>F. ワークスペース2 I ②壁による障壁 ⑥開口部の高さ</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>G. 休憩スペース1 I ①床の高低差 III ①スペーシングを考慮した集団誘導</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>H. 休憩スペース2 I ①床の高低差 ⑨姿勢 III ④天井高さによる集団誘導</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>I. 休憩スペース3 I ②壁による障壁 ⑥開口部の高さ</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>J. トイレ II ①物による間隔 III ①スペーシングを考慮した集団誘導</p>
<p>距離感レベル 離 近</p> <p>K. ランドリールーム I ⑥開口部の高さ III ①スペーシングを考慮した集団誘導</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>L. 運動スペース I ①床の高低差 III ①スペーシングを考慮した集団誘導 ④天井高さによる集団誘導</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>M. 談話スペース I ⑤開口部の形</p>		
<p>距離感レベル 離 近</p> <p>N. 中庭 I ②壁の障壁 ⑥開口部の高さ</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>O. ベンチ1 I ③植物による障壁 III ③日陰による集団誘導</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>P. ベンチ2 I ⑧椅子による視線の向き III ③日陰による集団誘導</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>Q. 仕切り I ②壁による障壁 ④壁の高低差 II ③壁による間隔</p>	<p>距離感レベル 離 近</p> <p>R. コモンテラス I ③植物による障壁 III ①日陰による集団誘導</p>

作品名	架け橋 ひとり社会をもう少し距離でつなぐ コレクティブハウス	作品番号	3/4
校名	岐阜女子大学		
氏名	守川 友理		

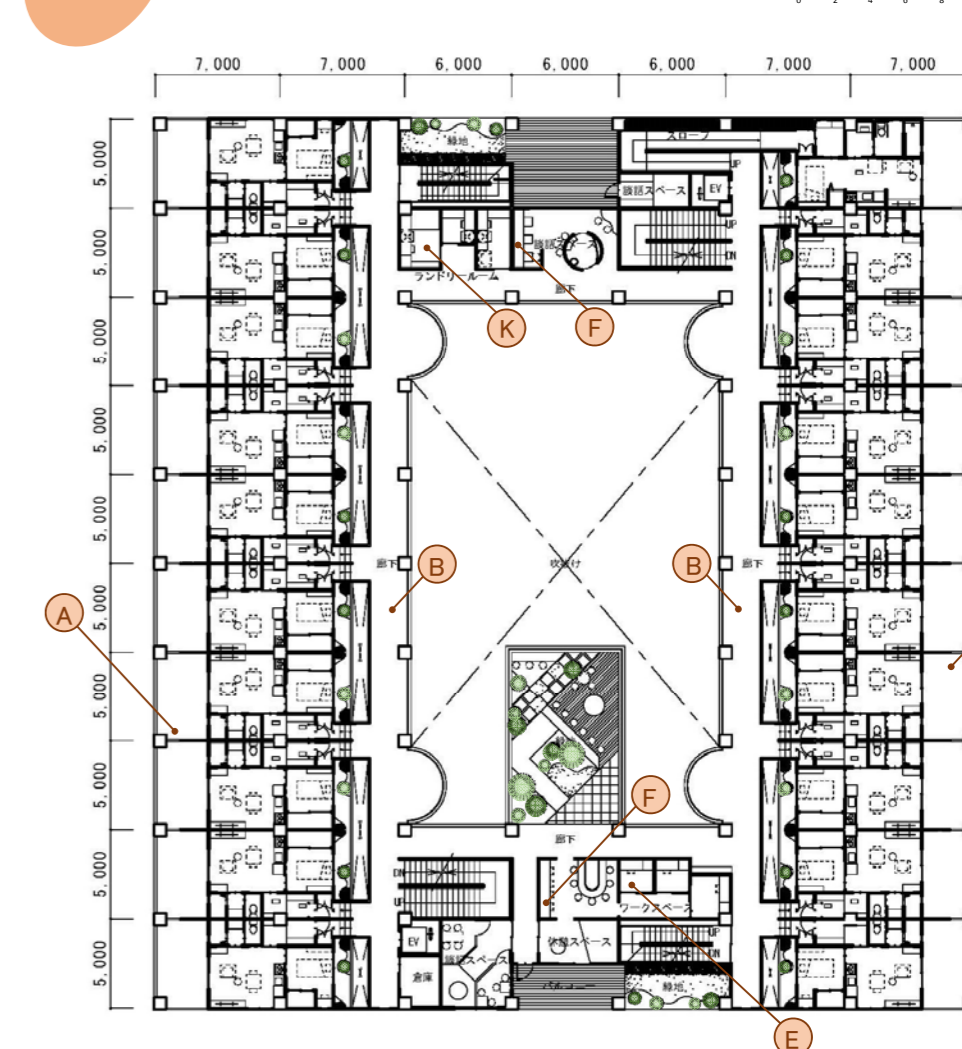
配置図兼1階平面図



2階平面図



基準階(3-7階)平面図



- ・鉄筋コンクリート造7階建て
102戸 (2戸ゲストルーム・2戸車いす使用者用)
- ・駐車場49台
(居住者用40台・車いす使用者用2台・管理人用2台・来客用5台)
- ・駐輪場63台



低層部計画工夫ポイント

居住者が一緒に利用し、一緒にいてちょうどいい距離感を保てるように、基本モデルを配置した。

※3-7階の基本構成は同じだが、3・4階の車椅子用住戸や吹き抜けの顔を出すエリアが一部異なる。



高層部計画工夫ポイント

住戸の中にも孤独を感じないかつ、プライベートな空間を確保できるように基本モデルを活用した。



×



||



×



||

孤独感の軽減

ちょうどいい距離感

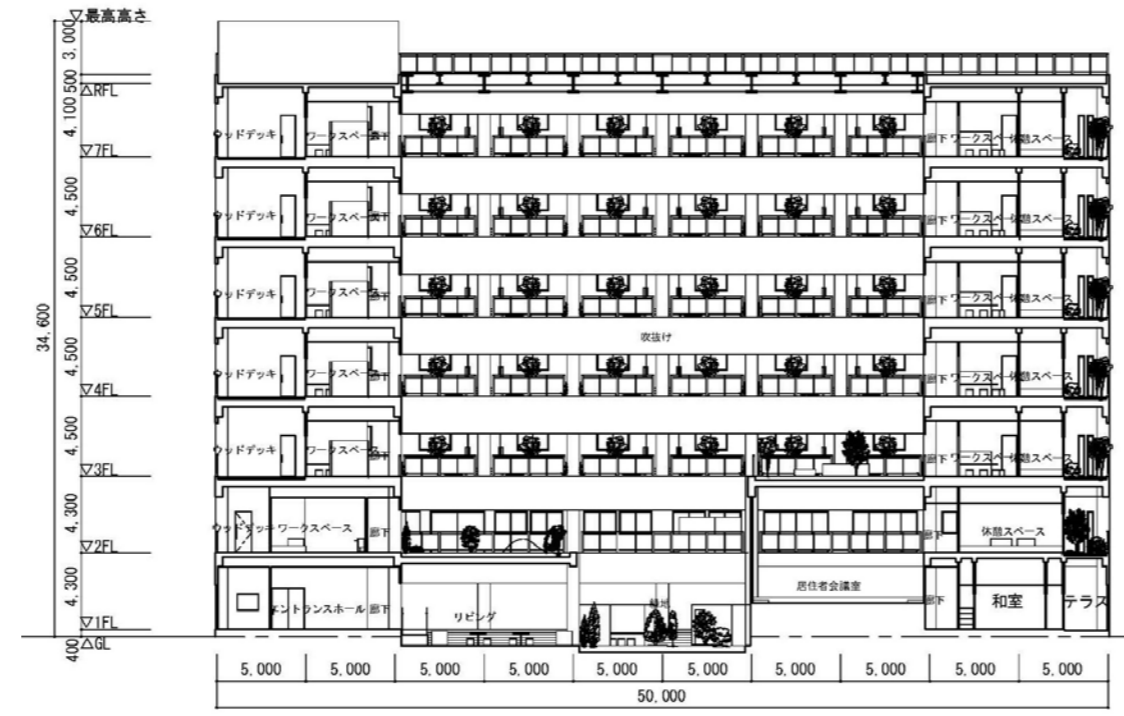


作品名	架け橋 ひとりと社会をよほどいい距離でつなぐ コレクティブハウス	作品番号	4/4
校名	岐阜女子大学		
氏名	守川 友理		

断面図

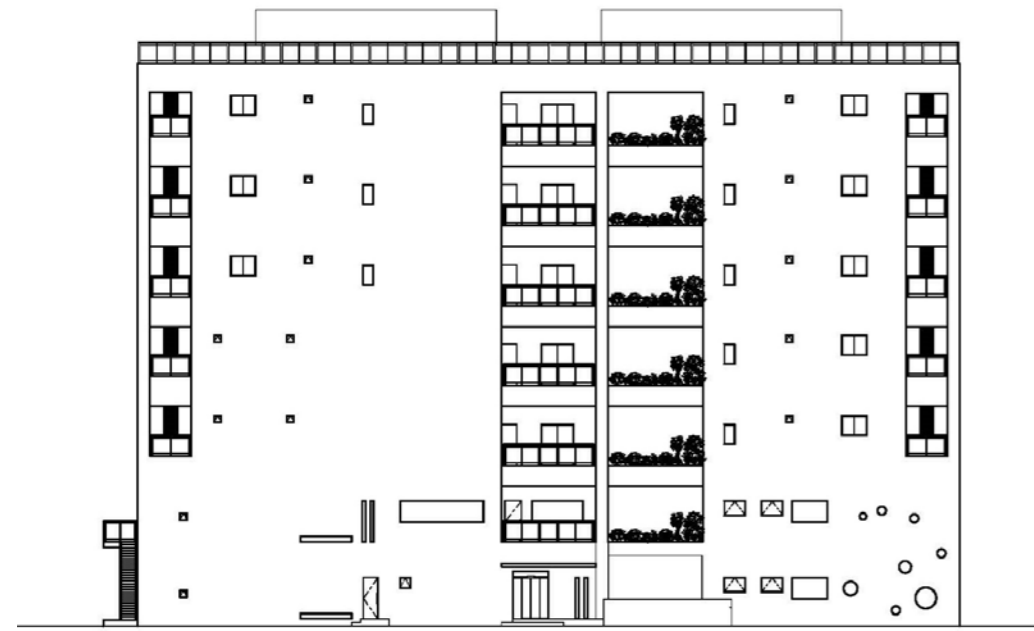


A-A断面図

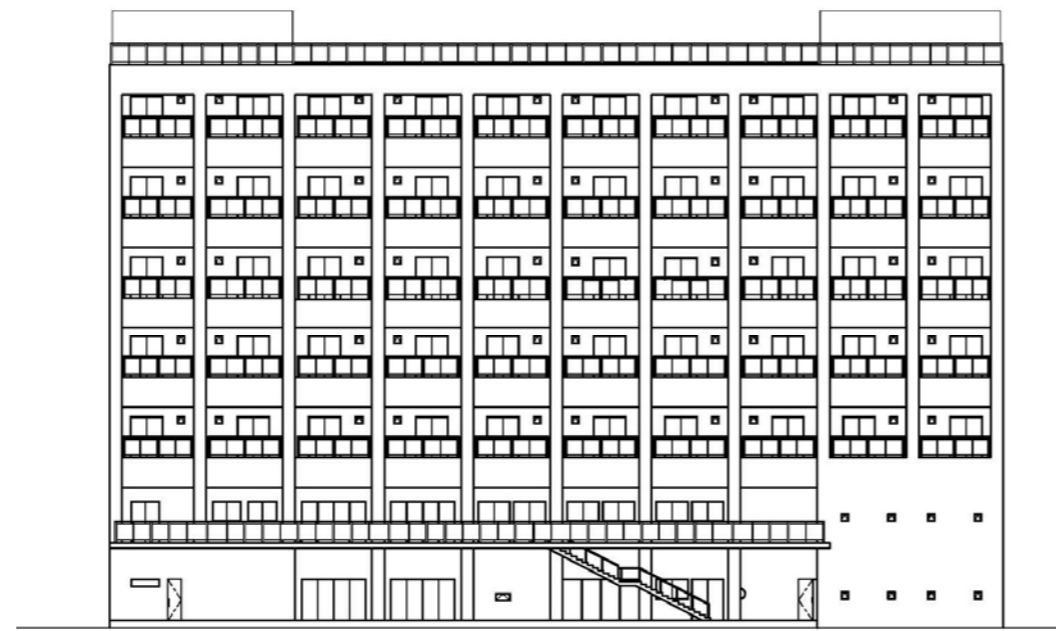


B-B断面図

立面図



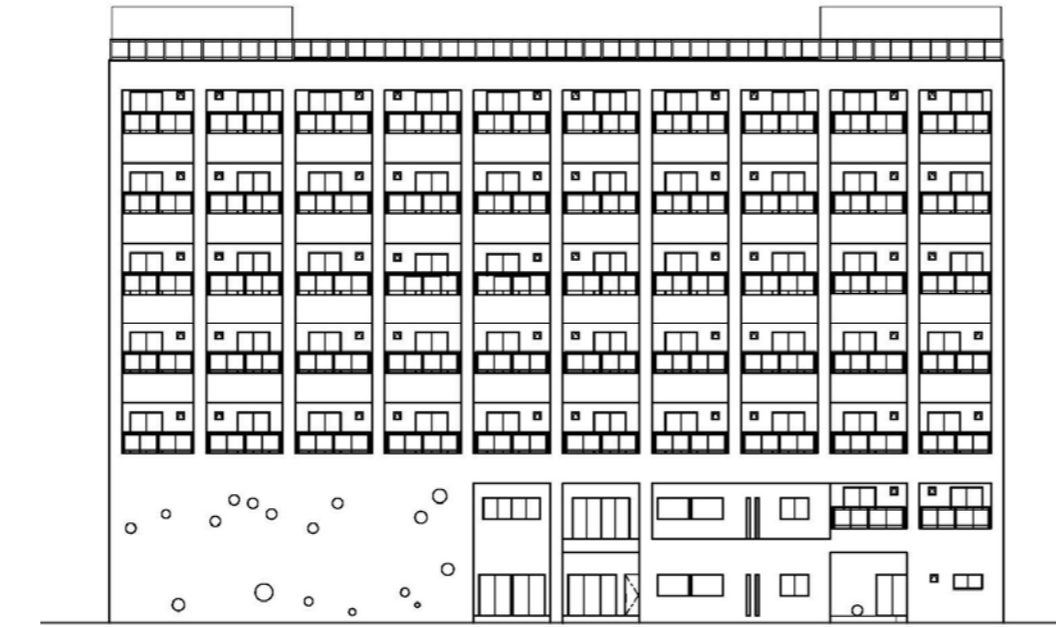
北側立面図



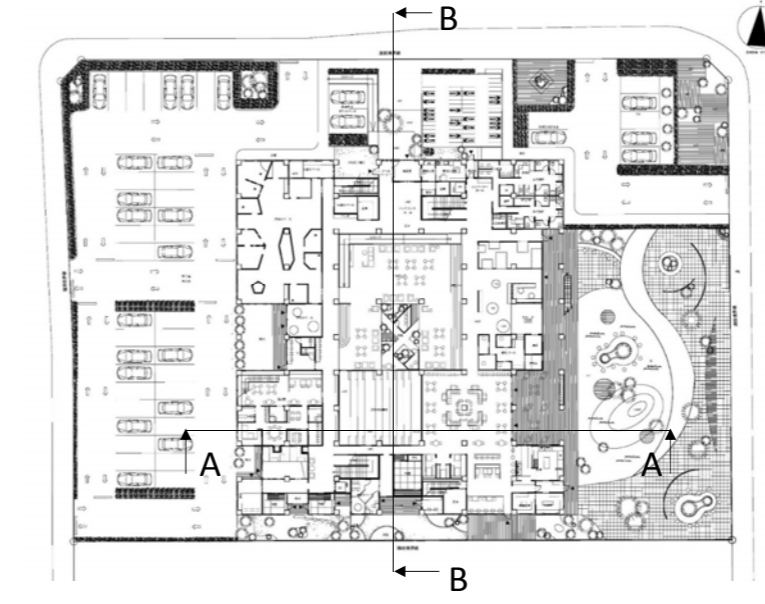
東側立面図



南側立面図



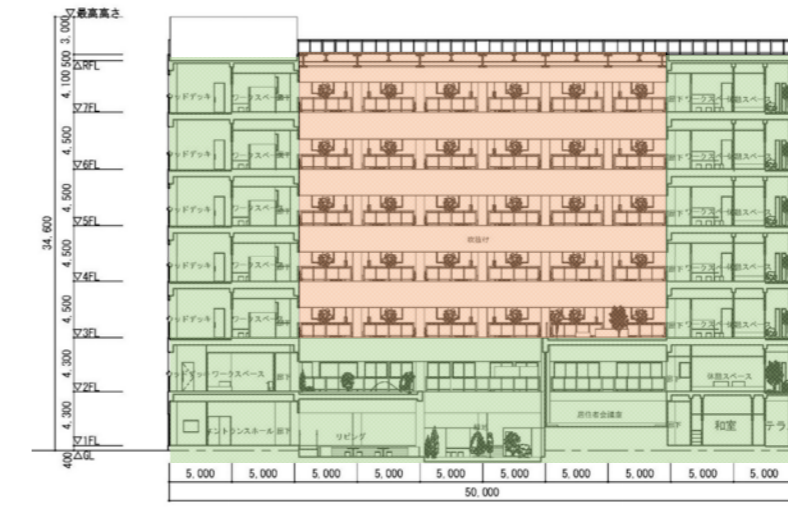
西側立面図



key plan

断面計画工夫ポイント

共用施設の1・2階が住戸を出てすぐに見えるように吹き抜けとし、共用部分に光を入れるために中心の屋根部分をアトリウムとした。



A-A断面図



B-B断面図

- アトリウム
- 共用施設
- 住戸



東側外観



北側外観